

# 筑西市立協和中学校

既存環境と良好な関係を保ちながら  
次代に継承される「新たな伝統」を創出



撮影：堀内広治 (p12-13)

## 計画の方向性

協和中学校の敷地は南東に筑波山を望む田園の中にあり、5haという恵まれた広さを誇る。広々とした運動場、校舎と運動場の境に見事に育った樺の並木が、協和中学校の恵まれた環境を創り出していた。立地と歴史が創り出した環境を保全し、

- 敷地の広さを活かした土地利用を継承する
  - 広々とした現状のグラウンドの広さを維持する
  - 既存樹木を保全する
  - 既存施設との良好な関係付けを図る
- ことを前提とした。

## 計画の基本理念

- 単に校舎を新しくすることに留まらず、次代に継承するための新たな伝統を創出することを目指した。具体的には、
- 校内動線を整理し、安全で快適な

## 学校環境をつくる

- 既存施設との関係、インフラを活かすために、現状位置で建て替える
  - 次代を担う子どもたちの充実した学習・生活環境をつくる
  - 周辺環境と対応し、地域のランドマークをつくる
- ことを基本方針とした。

## 配置計画

既存の並木、校舎前の植栽を活用したプロムナードを形成した。既存の樺並木は、生徒や訪れる人を正門から校舎に誘導する役割を果たしている。同時に運動場ゾーンと校舎ゾーンを区分する土地利用上の明確な区画となっている。このような既存樺並木の役割をさらに引き立て、緑豊かな学校環境を活かすことを目的として、正門から体育館前まで210mにおよぶスペースを校内のリニアなひろばとしてのプロムナードと位置づけ、歩行者専用の場とした。

## 建替計画

現状の校舎の位置付近に配置した。2回建設・解体を行い、現状の運動場は十分な広さをもっていると同時によく整備されていることから、現況を最大限維持することとした。また、体育館や格技場などの既存施設は校舎改築後も使用することから、これら既存施設と改築校舎の結びつきを考慮した。さらに、校内に潤いを与えている緑は可能な限り保全することとした。これらのことから、工事を2期に分けることを前提として、改築校舎、既存校舎の位置近辺に配置することとした。

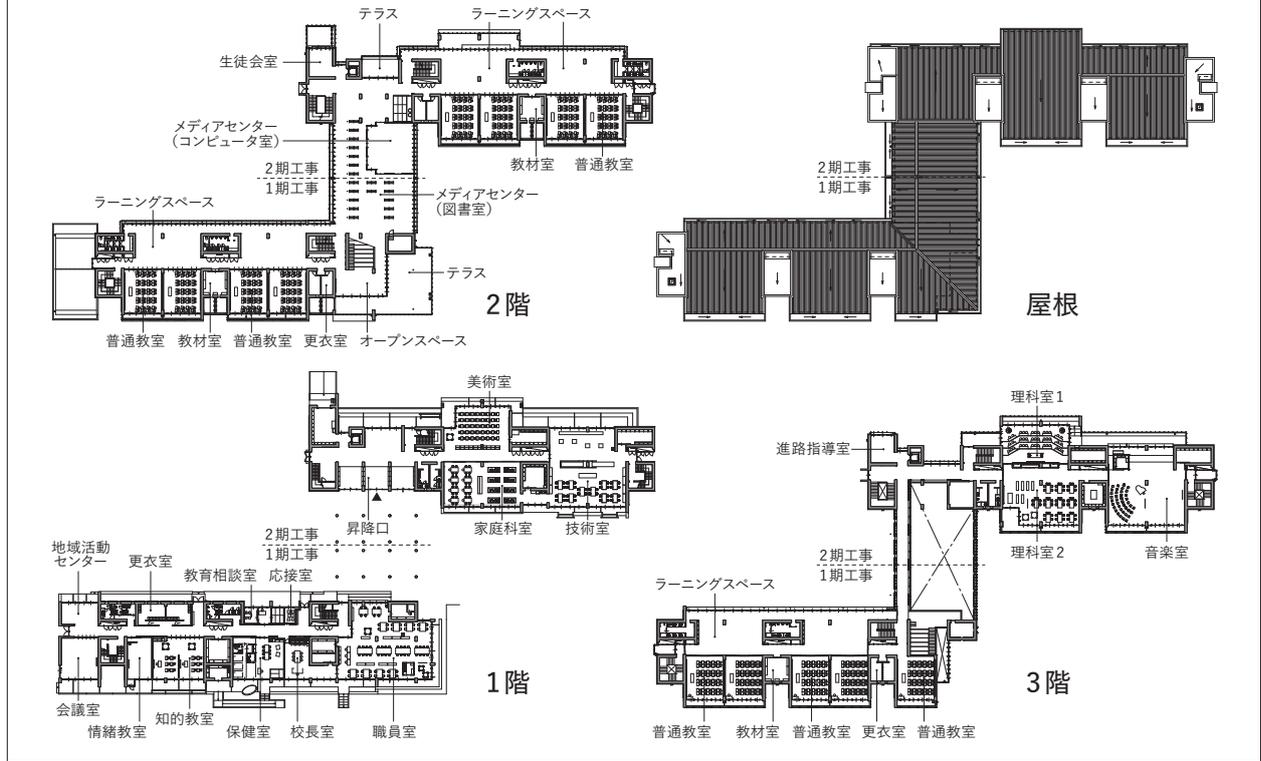
## 平面計画

メディアセンターを中心として、連続した学習空間を構成した。多様な学習空間の中心の場として、学校図書館・パソコン教室の機能を併せ持つメディア・センターを校舎の中央部分に位置付け、そのメディア・セン

# 筑西市立協和中学校

設計・監理 (株)三上建築事務所  
 所在地 筑西市門井1803-7  
 建築面積 3,005.80㎡

延床面積 6,924.41㎡  
 構造・規模 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)3階建て  
 竣工日 2011年8月



ターを中心として、そこからほぼ等距離の位置に3つの学年のゾーンと各特別教室を配置した。

## 構造計画

耐震要素を平面的・立面的にバランスよく配置し、全ての水平荷重(地震荷重)を負担させることとした。この耐震要素同士の間設ける床スラブを、必要最低限の鉛直方向部材にて支持する。これにより主要な教室は、耐震要素に拘束されることがなくなり、平面計画の自由度が高く、将来の改造等に対応しやすい構造体を造ることが可能となった。

## 設備計画

電気設備・機械設備ともに、系統分けされて建物各部に水・電力・通信などが供給される。それらの経路は縦経路によって上階に供給され、横経路によって当該階の各部に供給されることになる。これらの設備経路を建物内のインフラストラクチャー

と捉え、将来の更新を前提としたメンテナンス可能なスペースを確保し、設備経路も建物全体にほぼ均等に配置されるように、建築計画上のシステムを構成した。

シンプルにBEを構成し、階高を抑制すると同時に、設備のメンテナンスを容易にするために、大部分の内部各室に天井を張らない計画とした。配管やダクト、電気設備の配線ラックなどを内部空間に露出させ

て、不具合の早期発見を可能にすると同時に、天井材の解体・復旧をせずに、設備のメンテナンスや増設・更新を可能にした。配管やダクト、電気設備の配線ラックなどの設備経路は、内部空間に露出することを前提にして、整理された状態とした。また、構造体の梁も露出することになることから、構造計画においても内部空間と整合のとれた配置とした。



ラーニングスペース



メディアセンター(図書室)



オープンスペース